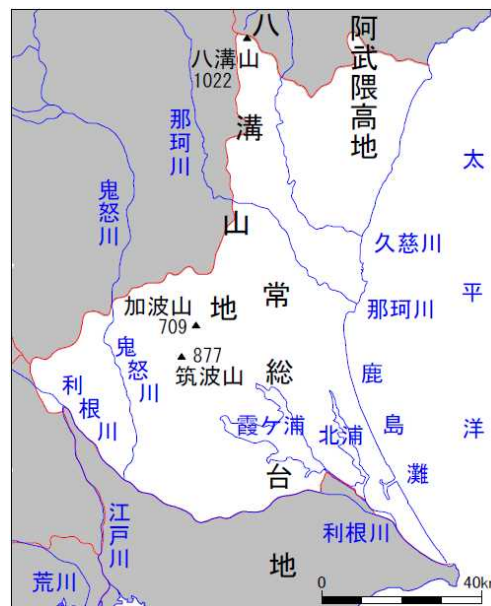
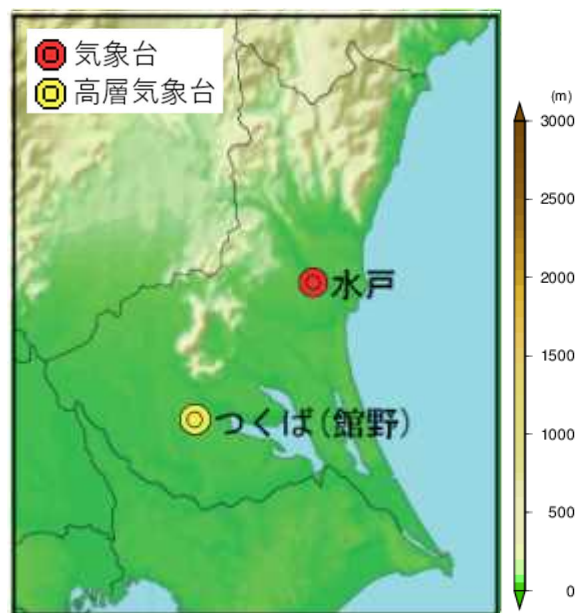


茨城県



茨城県の地勢

茨城県は関東地方の北東部に位置し、東は太平洋に面しており、北は福島県、南は千葉県、西は栃木県で、南西の一部では埼玉県と接している。県土の形は獅子が前足を伸ばして座った姿に例えられ、前足の先端に見立てた部分から尾に見立てた部分(南―北)で約 130km、同じく腹部から頭部(東―西)では約 90km の距離をもつ。総面積は 6,097km²(全国第 24 位)で国土の 1.6% を占めるが、県の中央部から南部にかけた平野部に比較的大きな湖沼や河川があり、それらを除く土地面積は 5,560km²となる。

県北部は東北地方から連なる阿武隈高地と八溝山地の峰々が占めており、北西部の福島県及び栃木県境に八溝山(標高 1,022m)がある。際立った高峰は無いものの起伏に富み、平たん地は少ない。県南・県西の地域は関東平野に属する平たん地が広がり、筑波山とその属峰を除けばなだらかな地形である。

千葉県との県境には利根川が流れるほか、水系を持つ大きな河川では那珂川、久慈川が県土を貫いて太平洋に注ぎ込んでいる。その他、小河川は東西に延びて太平洋に達するか、霞ヶ浦や北浦などの湖沼に流れ込んでいる。

茨城県の気候

茨城県は太平洋岸気候区に属し、冬は晴天が多く乾燥するが、梅雨期・秋霖期(しゅうりん)の雨量は多いという特徴がある。沿岸部では気温の日較差が小さいなど海洋性気候の特徴を持っている。海洋や霞ヶ浦等の存在は栃木県、群馬県などの内陸の県と比べ湿度を高くする要因であり、そのため霧の発生が多い。北部では、阿武隈高地の山々が沿岸部までせまっており、海からの湿潤な風を受けることで年を通じて地形の影響を受けた降水が多くなる。

農業被害をもたらす要因のひとつに「やませ」があるが、農作物の育成期である 6～9 月に冷涼湿潤な北東風が続くと被害規模が著しく、特に水稻(すいとう)の出穂期(しゅうすいき)に日照不足や低温が長引くと、米の収量に深刻な影響が及ぶ。

夏季の雷は栃木県や群馬県で発生・発達した雷雲が茨城県内に進入してもたらされるものが多い。県北部山沿いや栃木県境での激しい雷の様子は有名で、方言の中に雷そのものを「らいさま(雷様)」「らいさん(雷さん)」と呼ぶ地域がある。

地形データには USGS (アメリカ地質調査所) の GTOP030 を利用した。